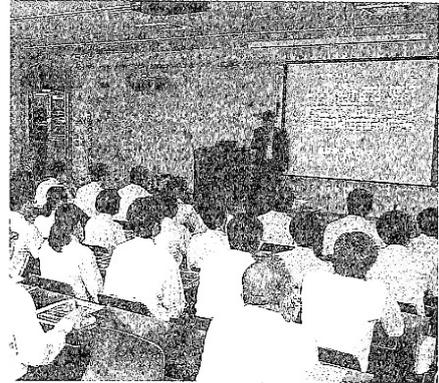


# 地図に残る仕事へ関心を

## 建設業魅力発信セミナー

### 道建設部が帯広で開催

【帯広発】道建設部は二十六日、帯広市内のとかちプラザで建設業魅力発信セミナーを開いた。本年度から新たに実施しているもので、学生やその保護者、一般市民など五十人余りが参加。厚幌ダム建設工事やICT活用工事に関する講話のほか、市内の建設会社で働く若手技術者による体験談発表などを通じ、建設業の役割と魅力を伝えた。



セミナーには市内の学生など50人余りが参加した

林課長は厚幌ダムの基礎岩盤が広範囲にわたり不陸を有し、工期の遅延が懸念されていたことから、発注者、施工業者、コンサルによる協議を通じ、新工法を用いて施工速度を向上させたエピソードなどを紹介した。

建設業の魅力に関しては、施工や検討に伴う新工法・新技術の開発ができることや、苦勞して完成させ

道内建設業では、若年就労者の減少に伴い、技術・技能の継承が困難となり、建設業本来の役割が果たせなくなることが懸念されている。このため同部では、道内五カ所でセミナーを開催することとした。

冒頭、あいさつに立った建設管理課の京田隆一建設業担当課長は、本年度からの新たな取組として同セミナーを企画したことを説明。その上で、建設業における将来の担い手確保に向けて「セミナーが実の多い

ものになれば」と期待を寄せた。

続いて、室蘭建管の榎林基弘治水課長が「厚真町の厚幌ダム建設工事」、日本建設機械施工協会情報化工委員会員の鈴木勇治委員が「ICTを活用した建設工

たものが地図に残る仕事であることなどを挙げた。

このほか、建設業で活躍する女性に視点を当てたDVDの上映や、萩原建設工業(株)土木部の勝山禎紀氏と宮坂建設工業(株)土木部の百澤貴紀氏が体験談を発表。それぞれ建設業を志した理由や、仕事のやりがい、今後の目標などを語った。